大支援研ニュース

特別支援教育

平成26年4月11日発行
大阪府支援教育研究会
会長　　中島　智子
（松原市立河合小学校長）

ホームページでお知らせがある場合があります

http://daishienken.visithp.com/

ニュースや本会活動への問い合わせ・ご意見は、Mailにて件名に「大支援研問合せ」など「大支援研」を入れてください。

jimukyoku2009@daishienken.visithp.com

◇平成26年度の総会と役員総会の予定　　総会案内は後日発送します。

総　会　　日　時　：　平成26年5月15日（木）　午後3時～5時　：　たかつガーデン

後半に大阪府教育委員会支援教育課より情報提供を予定しています。

＜総会は会員のどなたでも参加できます。＞

役員総会　**（役員の方はご予定願います。）**

第1回　日　時　：　平成26年6月17日（火）　午後3時～5時　：　たかつガーデン

第2回　日　時　：　平成26年9月　9日（火）　午後3時～5時　：　たかつガーデン

第3回　日　時　：　平成27年1月22日（木）　午後3時～5時　：　たかつガーデン

冬季研修会報告　詳細は別紙

・報告まとめ

1月25日、大阪府教育センターで冬季研修会を行いました。午前の全体会、午後３つの講座に多くの方の参加をいただきました。参加された方みなさん熱心に受講され、これからの実践に役立てていこうとしておられました。講師の皆様から、子ども達の顔を思い浮かべながら明日の実践に生かしていけるお話をたくさん教えていただけた、との感謝の言葉が多くありました。

・アンケートまとめ

アンケート、ご協力ありがうとうございました。これからの研修会活動に活かしていきます。
別紙では各講座の感想などがご覧いただけます。

ICT活用プロジェクトiPad体験会・研修会　　添付の報告をご覧ください。

2014年1月31日（金）と2月27日（木）に「超初心者対象のiPad体験会・研修会」を実施しました。この２回の体験会では、それぞれ会場の提供とiPad 20台の提供を大阪府立豊中支援学校と大阪府立和泉支援学校の両校にしていただきました。
また、体験会の会場と機材の準備、片付けも支援学校の先生方に協力していただきました。詳しくは添付記事をご覧ください。

大阪府教育委員会支援教育課、府教育センター支援教育研究室との懇談会報告　別紙

（詳細は添付の報告記事をご覧ください。）

平成２６年２月７日（金）に、大阪府教育委員会・府教育センターとの懇談会が行われました。研究会の本部役員、支部長、行事部員の参加のもと、教育委員会から６名、府教育センターから１名参加していただき、「大阪府における支援教育の現状と課題」について懇談が進められました。

研究会による今年度の活動について報告した後、以下の項目について府教育委員会、府教育センターから情報提供していただきました。

各支部の報告

堺市中学校・支援学校合同スポーツ大会　ホームページに写真と詳細記事あり。

堺市中学校・支援学校合同スポーツ大会が11月17日・18日の二日間2会場で実施されました。 毎年楽しみにし、来年に向けてと1年間練習を積んで当日を迎える生徒もいます。ボーリング、サッカーPKシュート、輪投げ、ストラックアウト、魚釣り、卓球、バスケットシュートとフロアカーリングなどの種目があります。

２０１３年度　冬季研修会　報告　１

大阪府支援教育研究会

１月２５日、大阪府教育センターで冬季研修会を行いました。午前の全体会、午後３つの講座に多くの方の参加をいただきました。参加された方みなさん熱心に受講され、これからの実践に役立てていこうとしておられました。講師の皆様から、子ども達の顔を思い浮かべながら明日の実践に生かしていけるお話をたくさん教えていただけた、との感謝の言葉が多くありました。有難うございました。

また、各支部から来られた役員の皆様、本当にお世話になりました。

各講座の内容報告をご覧下さい。

なお、今回の会場設定にあたり、大阪府教育委員会支援教育課、大阪府教育センター支援教育研究室の皆様にはたいへんお世話になりました。あらためてお礼申し上げます。

なお、当日お書きいただいたアンケートの集約は、「報告２」にあります。

全体会　**「子どもたちの将来をみすえた指導・支援の充実」**

大阪府立泉北高等支援学校校長　　長谷川陽一先生

障害者の権利に関する条約から、その内容、具体的な指導・支援への反映などについて、キャリアを活かしたお話をいただきました。まず、障害者の権利に関する条約について、そして、障がいのある子どもたちの現状、とりわけ大阪府の学びのステージの中身や将来をみすえた進路指導について、それから、キャリア教育について、の3つのテーマで話されました。

特別支援教育は、今やすべての子どもにとって必要な教育ととらえられ、障害者の権利に関する条約が、いよいよスタートします。インクルーシブ教育システムを構築する・障がいを理由に教育制度一般から排除されない・個人に必要な合理的配慮が提供される、がポイントです。

「インクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のために特別支援教育を着実に進めていく・連続性のある多様な学びの場を用意しておくことが必要」、「合理的配慮を行う義務」「就学先を決定する仕組みの改正」、このような特別支援教育の理念（本人・保護者の意見を最大限尊重する）と制度について詳しく丁寧に教えていただきました。

合理的配慮は、学校・教職員の考え方・スタンス、価値観にかかっている、子どもの力を最大限に引き出す姿勢を大切にするなら答えはおのずから見えてくるだろう、とのお考えで、アクセシビリティ確保の観点から、機器（道具）を使うことへの肯定感などを例に挙げられました。

子どもたちの状況では、特に高等学校に進学する支援学級の子どもたちが増加していること、私立学校に進む生徒も増え、学びの場が多様化していることなどの興味深いデータを示されました。知的障がい生徒自立支援コースと共生推進教室の制度の内容と違いのお話は、就労へのニーズの高まりもあり、中学校担当教員だけでなく、学校全体での将来をみすえた進路指導につながるものでした。

仲間として共に生きる支援者を育てることやキャリア教育では、「なぜ」「何のため」を大切にする考え方を示されました。

難しい文言をかみくだいて表現され、図やパンフレットが多く引用された見やすい資料をたくさん用意してくださいました。ありがとうございました。

分科会（Ａ）「教育アセスメントの意義と活用」～WISC-Ⅳ、K-ABCⅡを中心に～

大阪府立佐野支援学校　　清水謙二先生

アセスメントには、情報収集、行動の観察、検査等がありますが、その中でも検査法についていろいろお話をしていただきました。ＤＮ－ＣＡＳとＫ－ＡＢＣⅡの紹介をしていただき、ＷＩＳＣ－Ⅳについても、お話しいただきました。

ＷＩＳＣ－ⅣはＷＩＳＣ－Ⅲの改訂版です。Ⅲの場合はオープンな面もあり一定の勉強をすればよかったが、Ⅳはアセスメントに関する適切な訓練を受けたものが行うと規定されているそうです。アメリカでは国家資格が必要とされているとのことであり、日本でも将来的にそうなるのではと言われているそうです。検査用具や結果についても、適正な使用を守る専門家以外には公開しないなど厳しく決められているとのことです。そのようなことを含め、ＷＩＳＣ－Ⅳについて知ることができたのは貴重な機会でした。

Ⅳの検査の実施方法などの概略をお話しいただきました。各検査で測定する能力や関係する能力についての説明をしていただき、その結果が芳しくない場合どのようなことが考えられるか、支援の方法にはどのようなことがあるか、などを提示していただきました。

「検査の意味、検査結果の高い・低いということはどういうことかなど、自分のバリエーションが広がるので、今後研修を続けていかれることを願っています」という講師先生の最後の言葉が印象的でした。実際の事例などを含めて、分かりやすくお話しいただきました。ありがとうございました。

分科会（Ｂ）支援教育に関わる福祉制度について

大阪手をつなぐ育成会　支援センター中　所長　杉山萬千子氏

行政の現場で勤められていたキャリアを活かした具体的なお話をいただきました。

まず、知的障害の定義は福祉法にはなく、行政の定義で「知能指数ＩＱおおむね 75 以下」とされており、おおむねとは知能検査の統計学的誤差などを勘案されていることを話されました。次に、療育手帳は、大阪では、子ども家庭センターと、障がい者自立相談支援センター知的障がい者支援課が判定し、府が発行しているもので、病院等の他の機関の検査では判定できないこと等を話されました。

更新について多くの質問がありました。失効することはないが、その間はサービス等が受けられないことがあるそうです。そして、発達障害のある人は精神障害保健福祉手帳の交付対象となることなどです。

利便性だけでなく、本人の理解をするために手帳の所持が重要であるとの認識が大切です。障害の認知と情緒の安定には非常に関係があり、自己肯定感を持てるかどうか、対人関係の中で自分が自分らしく表現できるかどうかに、大きく関わると話されました。

経済的な手当や税の減免・利用料の割引、医療費の助成、支援メニュー等、家庭や学校で使えるものも教えていただきました。ありがとうございました。

分科会（Ｃ）研究部担当　各地区からの実践報告

①「ビジョントレーニングを学級に取り入れて」

和泉市立国府小学校　井阪幸恵先生・川村亜紀先生・徳永清恵先生

井阪先生より、「ビジョントレーニングとは」及び、「通常学級での取り組み」、川村先生より「通級指導教室での取り組み」、徳永先生より「支援学級での取り組み」についてお話いただきました。

まず視覚機能の重要性を話され、ビジョントレーニングとはどのようなものか、いかにビジョントレーニングが効果的であるかを説明いただきました。通常学級において、毎朝ビジョントレーニングを取り入れることにより、個々の集中力が高まり、学級が安定してきたことを担任の先生方が実感されているとのことでした。また、９月と１２月にテストを行い、視空間認知の向上は数値にも表れていることを報告されました。

通級・支援学級においてもマンツーマンで個々に応じたビジョントレーニングを取り入れ、集中力が高まり、自信に繋がっているという報告をされました。

最近のビジョントレーニング研究で、トラウマ・うつの改善にビジョントレーニングを発展させた治療が確立されているとのことでした。そのことからビジョントレーニングは心の安定につながり不登校を予防するのではないか、という報告もありました。

ビジョントレーニングの有効性を知り、教材の紹介も多数あり“取り入れたい”と多くの先生方が思われる研修となりました。

②人生の振り返りと将来に向けてのステップ　～ＩＣＴを利活用した発表会の実践報告～

大阪府立寝屋川支援学校　森脇 啓仁先生

「自分はいったい何者なのだろう」と、過去の自分、現在の自分と向き合い、将来の自分へ線で繋げていくことを軸に、ＩＣＴを利活用した校内発表会の実践報告でした。

森脇先生は、“障がいがあるからパソコンが使えない”のではなく、“障がいがあるからこそパソコンを便利に活用する”ことを柱に、１年生では Word・Excel の使い方やインターネットの検索、２年生では情報モラルを重点的に、そして３年生でパワーポイントを使った発表会と、高等部３年間のＩＣＴ教育計画を立て実践されました。まず、発表会の準備段階では、第１ステップ「自己評価」、第２ステップ「友達評価」、第３ステップ「これまでの人生を振り返る」という３段階に分けられました。“自分のありのままをさらけだそう”をテーマに資料を作成し、これを基にプレゼンテーション原稿を作成、生徒・教員向けの発表会が行われました。発表を終えた生徒たちは、達成感と満足感に満ちた表情で、貴重な経験と成功体験を積んだとの報告でした。

最後に森脇先生は、「パソコンの操作技術よりも、３年間でいかに生徒との信頼関係を築くかが大事であり、あくまでもＩＣＴはそのひとつのツールにすぎない。道具に左右されず、社会人として生きていくためにＩＣＴを利活用してほしい」と結ばれました。

２０１３年度　冬季研修会　報告　２

アンケート　まとめ　ご協力有難うございました！

～ これからの研修および会の活動に活かしていきます　～

講座の感想など

全体会　**「子どもたちの将来をみすえた指導・支援の充実」**

大阪府立泉北高等支援学校校長　　長谷川陽一先生

・支援教育について法的観点から詳しく話しをしてくださったので、現在の状況を学ぶ事ができ、よかったです。高等学校の制度も、すごく多様化していることを知りました。

・支援教育の全体像、進路、キャリア教育など、支援に携わるものが知っておかなければならないことを、とても丁寧に教えて頂き大変勉強になりました。ありがとうございました。小学校では、通常学級や支援学級など、いろんな担任を持つことが多いのですが、インクルーシブ教育、合理的配慮など、どの学級の担任になっても知識として持っておかなければならないと思います。

・長谷川校長先生のお話は、けっこう難しい内容のことですが、とても分かりやすくお話をいただいたので、私自身も理解がすすみました。

・自立支援コースと共生推進教室が、なぜ違うようになったのかが初めて分かりました。入試の時のトラブル、学校としての進路指導を位置づけてほしいというお話に全く同感ですが、制度としては、支援学級在籍の生徒は、通常学級に在籍している子とカウントされていません。生徒により違いますが、抽出教科１～３教科以外のほとんどの授業や行事を通常学級で過ごしている実態から考えると、当然ダブルカウントされるべきだと思っています。

・非常に分かりやすく、今教育現場ですべきことが将来へ向けて逆算してイメージすることができた。

・とても参考になりました。小学校の支援学級の担任ですが、来年度から保護者が入学希望している児童について悩んでいました。施設設備的にも人的にも無理、その子の命の安全を保障できない。現在在籍している子どもたちの学習も保障できなくなる・・・　と思っていました。今でも気持ちは、変わっていません。ただ、法の動きや、その背景にある思想などについてのお話を聞いたことで、頭の中を少し整理することができました。また、支援学校の先生方と連携をしてみては、というアドバイスもいただき、ありがとうございます。学校に持ち帰り話してみたいと思います。

・まさに自分の立場に重なるお話でした。インクルーシブ教育システムという考えは、受け入れながら、通常の学級、特別支援学級・学校の、それぞれができることを自分自身がより理解していかなければならないと感じました。普段から、「子の将来を考えて～」と思っていながら、自身の制度などの勉強不足を痛感させられました。小学校６年間だけでなく、一生を考えた上で、明日より一層考えを深めていきたいと思います。
・長谷川先生の話す内容が分かりやすく聞きやすかったです。障害者の権利、制度について、内容をくわしく理解できていなかったので、勉強になりました。中学生の進路状況の推移を知り、進学先の現状を初めて知りました。予想以上に全日制高校への進学者数が多くて驚きました。将来を見すえた、今しておくべき指導や支援について、実践的なお話も聞いてみたいと思いました。
・「大阪府の取り組みでは」などと言葉を置いてから制度の説明をしていただいたので、うちの自治体では違うのか、などとわかった上で聞くことができました。
・法律・制度が、国際的な流れの中で、いよいよ日本でも変わっていく、まさに、その場にいるのだなと自覚を強くしました。
・中学２年の支援学級生徒で、進路先が目の前に迫っているので、とても参考になりました。検査を受けても、ボーダーの子が手帳を取得できなくて、経済的にも厳しいので支援の手厚い私立高校にも行けない、そのような生徒の進路先に悩まされています。
・「障害者の権利に関する条約」について、以前にも学習したことがあったのですが、今日はとても分かりやすくて、頭の中がスッキリしました。キャリア教育については、私なりに大切だと思っていたことを話されていたので、このまま続けていく後押しをしていただきました。子どもたち一人ひとりの将来を見据えながら、明日からの支援に取り組んでいきたいと思います。
・前半は法や制度の説明が多く難しく思いましたが、後半は小学校のころからの具体的に将来を見据えた子どもたちへの指導(キャリア教育を含む)や、保護者への対応・説明に役立つものだと思いました。
・小学校勤務ですが、高校で何が必要なのか、そのためには今から小学校で何をしなければならないのかを知ることができ、とても勉強になりました。
・障害者の権利に関する条約や就学先・進路先の決定について、キャリア教育について、とてもよく理解でき、すっきりと整理できました。
・ユニバーサルな授業を今日の講義でも実践されていて、時間のめども立ち、安心して聴かせていただきました。

分科会（Ａ）「教育アセスメントの意義と活用」～WISC-Ⅳ、K-ABCⅡを中心に～

大阪府立佐野支援学校　　清水謙二先生

・ＷＩＳＣ－Ⅳについて教えてもらえてよかった。わかりやすかった。
・実際の事例を用いた話がわかりやすかった。
・前半はよくわかったが、後半は難しすぎてわからなかった。
・もう少し基本的な内容がよかった。
・十分な理解という面では難しかった。これを機に勉強していきたい。
・時間が短かった。もう少しゆっくり聞きたかった。
・検査結果を基に、子どもへの具体的な支援を考えていきたいと思った。
・子どもの苦手なところを見がちだが、得意なところも見ていくことを大切にしたい。
・子どもの検査結果を見直して今後の指導に活かしたい。
・検査結果をうまく支援に活かせていないのが現状。今後も研修を重ねたい。
・支援の方針と内容の部分をもっと聞きたかった。
・子どもを思い浮かべながら確認していくことができて、本当によかった。
・今後は特定の人しか検査を実施できないと聞き、素早く適切な支援をしていくことに不安を感じた。
・ＷＩＳＣは名称ぐらいしか知らず、とても勉強になった。
・検査者とよく話し合い、支援方法を考える必要性があると感じた。
・検査に頼りすぎてもよくないと思うが、結果の分析をすることで子どもの様子を整理して見れると思う。
・校内で誰が検査していくべきなのか、どの子どもに検査が必要なのかわからない。
・子どもの困り感、支援のあり方を考えることができてよかった。
・検査結果から苦手分野がわかり、関連性がおもしろいと思った。
・プラス思考から支援を考えることが重要だと感じた。
・検査を受けられる環境を整えていくべきだと感じた。

分科会（Ｂ）支援教育に関わる福祉制度について

大阪手をつなぐ育成会　支援センター中　所長　杉山萬千子氏

・福祉について勉強不足の為、こまかく教えて頂きよくわかりました。保護者と懇談の中で出た疑問も解けました。
・自分の勉強不足が改めてよくわかりました。一人ひとりの質問に丁寧にお答え頂けたことがとてもうれしかったです。
・とても参考になりました。これからも「手帳」について、取っていくことに抵抗のある保護者の方にも話をしていきたいと思えました。

・今年度から支援担任をしています。福祉サービスについては知らないことばかりで参考になりました。最後の質疑応答のところでよい質問がたくさん出て参考になりました。発達障がいの生徒の進路に対して不安を持っています。
・ややこしい制度について、現場におられた方から説明を聞くことができてよかったです。難しかったけどなんとか概要は理解できたように思います。これからも勉強していきたいと思います。
・手帳に関する知識が浅かったので、詳しく教えて頂けてよかったです。将来を見据えてどのような制度の利用が可能か…等、教職員ももっと学習して保護者に対応していかなければならないと感じました。
・とても勉強になりました。知らないことばかりでした。また、調べ方（どこのＨＰだとか、大阪ではこの名称となっている…とか。）もよくわかりました。
・福祉制度について事情も交えて話して下さり、わかりやすかったです。療育手帳についても詳しく説明してくださり、内容についてより理解することができました。これを機に福祉制度についての知識をもっと増やしていきたいと思います。
・福祉制度について殆ど知らない事が多いので、とても参考になりました。特に計画相談支援の件についてはすぐ保護者に伝えようと思いました。
・福祉制度の基本的なところを分かりやすく説明していただき勉強になりました。参考資料をのせていただいたので帰ってから検索したいと思います。
・昨年より放課後支援（Ｈ２４年度～）を学校で取り組んでいますが、なかなか全職員に理解してもらえず悩んでいます。介護事業所さんからいろいろ教えてもらっていますが…。今日はもっと深く学習したくて来させていただきました。今日聞かせて頂いた事を学校や、保護者へ伝えていきたいと思います。今後ももっともっといろいろ聞かせてもらいたいです。この様な機会をもっと増やしていただければ嬉しいです。
・ライフステージと福祉制度について、もっと具体的にくわしく知りたかったのにその部分の説明の時間があまりにも少なく期待外れでした。その後の質疑応答はとても参考になりました。
・福祉制度について今までほとんどの部分、自分が知らなかったということを知りました。とても参考になりましたが、もっと知るために、示していただいた参考資料を手に入れて学習しようと思います。
・子ども、保護者と向き合う中で出てくる制度について分かりやすい説明をしていただき、よかったです。
・手帳の種類や交付までの流れ、福祉制度などを詳しく説明して頂いたので、今後保護者と話をする際などで活用できると思います。
・精神障害者保健福祉手帳が、法定雇用率にカウントされるというのは朗報ですね。

分科会（C）研究部担当　各地区からの実践報告

①「ビジョントレーニングを学級に取り入れて」

和泉市立国府小学校　井阪幸恵先生・川村亜紀先生・徳永清恵先生

・私も小学校の支援学級担任で、ビジョントレーニングをとり入れていますが、それを学校全体で取りくんでいると聞き、とてもいいことだと思いました。さっそく、支援部会で今日の研修について語り、広めていきたいと思います。
・本を読んでやり始めていたのですが、具体的に実践の様子を教えていただいて、とてもよくわかりました。通常学級で、また通級教室で、支援学級で、と場面に応じての例を見せていただいて、しっかりとしたイメージができました。月曜日からすぐやっていきたいと思います。
・ひもつきお手玉やピンポン玉キャッチなど、遊び感覚でできるものもビジョントレーニングだということを知り、面白く思いました。さっそく休み時間にでもクラスの子とやってみたいと思います。
・豊富な実践を紹介して頂き、とても参考になりました。自分自身も昨年初めてビジョントレーニングという言葉を知り、少しずつやり始めたところですが、ちゃんと継続してやってこなかったので、毎日続けていると、こんなにも効果があるのか、驚きでした。
・大変興味をもちました。なぜ書けないか、という疑問についても解決の糸口がつかめました。
・ビジョントレーニング！！来てよかったです。中学生でも成功してるという話を聞き、早速やってみようと思いました。
・学校全体でとり組むまで大変な苦労があったと思います。今回の発表を受けて、できることから取り組んでいかせていただきます。
・今、朝の会でビジョントレーニングを１学級でお試しさせてもらっています。自分のすすめ方がこれで良いのか、いつも試行錯誤でしたが、今回のお話を聞いて今回のものもとり入れさせてもらって、学校全体でやっていけるよう、成功例を作っていけたらと思いました。
・ビジョントレーニングは、眼球運動だけでなく、脳への刺激を与え、集中力や心の落ち着きを生み、子どもたちがみるみる良い方向に変わっていくことを知り、目からウロコでした。

②人生の振り返りと将来に向けてのステップ　～ＩＣＴを利活用した発表会の実践報告～

大阪府立寝屋川支援学校　森脇 啓仁先生

・感動しました。周りと自分を比較するだけの力がある子は、他と自分を比べて苦しんできたんだろうな、と思います。でも、支援学級に来て色々な葛藤などを乗り越えたことが、４枚のスライドから感じられました。
・高等部の取り組みでしたが、小学校の子どもたちに必要な共通点がいくつもあり、これからの指導に活かしていきたいと思いました。（キャリア教育・人権教育）
・高等部で、この実践を本当によくできたなと思います。生き方学習だと思います。自信を持った子どもは、いきいきと生きることができるのだと思います。

・子どもの発表内容に感動しました。中学校の支援担ですが、保護者の中には、進路選択の際に、支援学校に行くことを嫌がられる方がありますが、こんなすばらしい支援学校があることを知って頂きたいと思いました。
・ＩＣＴの活用をしつつ、生徒と先生とのかかわり方がとても良いなあと思いました。信頼関係をもとに実践されたことがよくわかりました。
・自分を見つめるのが下手な子どもたち、劣等感でいっぱいの子はなおさら…ですが、ここまで掘りおこせるのがすごいなと思いました。私たちも実践できるはずで、していかなければならないことだと思いました。
・「ＩＣＴの強みを活かす」というキーワードを参考にしたいです。全てをＩＣＴ機器で行うのではなく、一度紙ベースに記述することも効果的だなと思いました。
・「できないかも」と思えることでも、教師が正面から子どもに向き合えば、子どもってやり切るんだなと感心しました。
・卒業に向けて、ふり返りの作文づくりやおわかれ会などが企画されているので、とても参考になりました。自信をもって巣立たせるために、きめ細かい指導と配慮があることがよくわかりました。
・文字では書けなくてもパソコンになら正直になれる、というところが心に残りました。パソコンを有効に使うことで子どもたちの可能性を引き出されて、将来に希望が持てるまでにされたことが素晴らしいです。
・ＩＣＴの発表を通して、「人前で話すこと」「成功体験を味わう」ということは、小学校の時から積み上げていくことが大切だと思いました。そのことを意識して行っていきたいです。
・計画的に一つ一つ実践を積み重ねて、これまでの自分を振り返り、これからを見つめることができたのだと思います。一つのものを作りあげるということが大切だと思いました。

２．研修会の運営全体について

・〆切ぎりぎりだったのに、すぐ参加ＯＫの返信メールがきて、すばやい対応をしていただきよかったです。
・ＨＰでの申し込み後とてもスムーズに連絡が帰ってきてよかった。
（同様のご意見が多くありました）
・会場が少し寒かったです。府のセンターなので仕方ないですね。（同様のご意見多数）
・学びの機会を作っていただき、ありがとうございました。（同様のご意見多数）
・申し込み期間を長くとっていただいたので、助かりました。
・何度か案内を学校に送付していただいて、よかったです。（同様のご意見多数）
・よかった。スライドが、やや見えにくい点だけが残念だった。
・パワーポイントが見にくかった（同様のご意見多数）

・堺市の職員ですが、この研修会の情報を回してもらえて助かります。今後もそうしてもらえるとうれしいです。
・ＨＰの研修案内の初めに間違った時刻(10:30～)が記されていたので遅れてしまい残念でした。しかし、ご丁寧にお話し下さりありがとうございました。
・土日よりも水曜日の午後に実施してほしい。
・休日に研修会を開いてくださるのは、日ごろ忙しく行事などの多い学校生活を送っている私たちにとって、ゆっくりとお話を聞くことができて、とてもありがたいです。
・いつも役に立つ内容でやっていただいているので、休日でも参加しようとする気になります。
・午前と午後の一日の研修でなく、午後 1:30～4:30(80×2)の方が参加しやすくなる。
・夏休みに２回研修してほしい。(長期休業日の方が参観等と重なりにくいため)
・分科会Ｃでは、小学校と高等部の実践を聞きましたが、小学校勤務なので、２つとも小学校の実践報告だと良かったなぁと思いました。高等部の実践報告もすばらしいものでしたが、小と高は少しかけはなれているので…。
・休日の研修会は、ゆっくり参加することができるので、嬉しいです。発表してくださる先生や運営にあたる先生方は大変でしょうが、また色々と企画　お願いします。
・他の分科会も気になる所があるので、まとめたレジメをもらえたらうれしいです。
・支部への報知周知がむずかしいですね。
・せっかくの発表を携帯で撮影する方が何名かいたが、それは発表者に対して、非常に失礼な行為である。
・ＨＯＷ　ＴＯを求めているわけではないけれど、実践報告は自分の担当している子どもたちの姿と重ねやすく、自分のとりくみを振り返るよい機会になります。

３．これからどのような研修会や講演会を行えばよいか

・今回の進路の話、とても勉強になりました。今まで聞いた中で一番詳しかったです。それぞれの市でもぜひ研修していただきたいです。
・今日のような、午前中は、情勢や支援教育を大きくとらえ、午後は専門性ある内容。
・発達障がいと不登校との関連や対応について学びたいと思います。
・障がいを持った生徒に寄り添った学級づくりのコツ、考え方を小中学校の先生向けに提案していただければ、教育現場のインクルーシブ教育がより進むのではないでしょうか。障がいの有無に関わらず、居心地良い学級づくりは、子どもの心の荒れを防止するために、人格形成上急務だと感じています。
・教師が悩んでいる子どもの状態をテーマにした講演
・通常学級の児童・生徒への理解教育を具体的に実践例とともに教えてほしい。
・iPad やタブレット、パソコンを使う教材と使い方を知りたい。
・今日のようなＷＩＳＣ－Ⅳの研修を受けたい。
・具体例を挙げた研修がとても役に立つ。
・支援担として、学級担任として、子どもにどう関わるか色んな事例を参考にしたい。
・Ｋ－ＡＢＣⅡについて研修してほしい。
・通常の学級における支援の方法を研修してほしい。
・大学や短大で行われている発達障がい、知的障がい等をもつ学生に対する支援の具体例などを聞きたい。
・米田和子先生によるティーチャーズトレーニング、ペアレントトレーニングを２日間、人数を少人数にして実施していただくとありがたいです。（土日や長期休業中に）
・今日のような「明日学級で使いたい」と思えるような実践報告をしていただくと嬉しいです。
・感情のコントロールが難しい子どもへの対応の仕方を具体的に知りたいです。（家庭との連携の取り方について）
・書字訓練（鉛筆の持ち方）、姿勢保持、体感トレーニングを研修したいです。
・今注目されているタブレットの活用法、現状を知りたいです。
・特別支援の最新情報（国や大阪）など

大支援研研究部 ICT 活用プロジェクト iPad 体験会の報告

ICT 活用プロジェクト事務局　平峰厚正

２０１４年１月３１日（金）と２月２７日（木）に「超初心者対象の iPad 体験会・研修会」を実施しました。この２回の体験会では、それぞれ会場の提供と iPad２０台の提供を大阪府立豊中支援学校と大阪府立和泉支援学校の両校にしていただきました。また、体験会の会場と機材の準備、片付けも支援学校の先生方に協力していただきました。本当にありがとうございました。

今回の体験会・研修会では、iPad のタッチパネルの基本操作方法（タップ、ドラッグ、フリック、ピンチアウト、ピンチイン）をアプリを使って練習したり、アプリのダウンロードの仕方などを実習しました。また、iPad を使った実践紹介（支援学校の取り組み）についての紹介もありました。

第１回の体験会・研修会の参加者は１０名、第２回は１５名の参加がありました。参加した先生方からは

・中身の濃い研修会ありがとうございました。少人数でわかりやすくてよかったです。
・生徒が、実際、家で使っているものを見て、どんなものかと常々思っていたところで、この研修会を見つけました。初めて実際にさわってみてイメージがわきました。今後、勉強して生徒の教育活動に生かせたらと思います。
・今日は有難うございました。iPad について、少しわかった気になることができました。アプリも自分で選んでいくというのが難しそうだなというのと、本当に学校で買ってもらっても、しっかりと子どものために活かしていくことができるのかという不安があります。まず、自分で買って楽しめるようになるのが先かな…という気がしました。

等の感想が出ていました。

最後に、講師の先生からは、iPad の操作方法やアプリを使った実践など、初歩的なことも含めて、地域の支援学校（豊中支援学校や和泉支援学校など）の先生方にどんどん質問してほしいとの話がありました。

平成２５年度大阪府教育委員会支援教育課・府教育センター支援教育研究室との懇談会
～「ともに学び、ともに育つ」教育の推進に向けて～

平成２６年２月７日（金）に、大阪府教育委員会・府教育センターとの懇談会が行われました。研究会の本部役員、支部長、行事部員の参加のもと、教育委員会から６名、府教育センターから１名参加していただき、「大阪府における支援教育の現状と課題」について懇談が進められました。

研究会による今年度の活動について報告した後、以下の項目について府教育委員会、府教育センターから情報提供していただきました。

１　支援教育の現状について

〇国内外における支援教育の動向について

・「障害者の権利に関する条約」の批准に向け、「障害者基本法」の改正、「学校教育法施行令」の一部改正、「障がい者差別解消法」公布といった国内法整備が成された。これにより、今後は国においてインクルーシブ教育システムの構築がさらに進められていく。

〇大阪府内の小中学校における支援教育の現状と課題について

・小中学校における支援学級在籍児童生徒数は増加し続けている。途中入級の数も多い。

・支援学校在籍数と支援学級在籍数を比較すると、小学校段階（１：７．２）に対し、中学校段階では（１：２．２）となり、支援学校に在籍する割合が多くなっている。

・府内の支援学級は、今年度の障がい種別設置により３８７学級増加した。支援学級は、校内におけるセンター的機能をさらに発揮し、研究・研修に努め、種別設置の効果が求められている。

２　府立支援学校新校整備について

・「大阪の教育力」向上プランをもとに、府内４地域で知的障がい支援学校の新校整備を進めている。

・平成２５．４　「摂津支援学校」「とりかい高等支援学校」を開校

・平成２６．４　「泉南支援学校」「すながわ高等支援学校」を開校予定

・平成２７．４　　北河内地域、中河内・南河内地域、に開校予定

・高等支援学校は、依然として本人・保護者の高いニーズがある。

・知的障がい支援学校高等部卒業生の就職率は、年々上昇。Ｈ２４年度は２６．２％

・職業学科と職業コースの生徒の就職先の職種について、大きな違いはないが、府立たまがわ高等支援学校では、厨房実習があることで職業コースより調理補助の割合が多いのかもしれない。

３　大阪府「支援教育地域支援整備事業」推進体制について

・支援学校のリーディングスタッフは地域支援の牽引役となり、ブロックの支援教育を推進する役割を担う。

・府立支援学校は、地域ブロックのセンター校として、地域の支援学校同士が連携し、地域の学校への支援を推進していく。特に支援学校間の連携に力を入れ始めており、例えば複数の支援学校の教員で、地域支援に出向くような取組みも行っている。

４　高等学校におけるともに学び、ともに育つ教育の推進について

・「知的障がい生徒自立支援コース」「共生推進教室」の設置で、高等学校における「ともに学び、ともに育つ」教育の推進を図っている。

・「知的障がい自立支援コース」及び「共生推進教室」とも高い就労率となっている。

・来年度から府立信太高等学校に「共生推進教室」を設置。本校は新たに設置される府立すながわ高等支援学校になる。

５　交流及び共同学習の現状と課題について

・すべての府立支援学校において「交流及び共同学習」を実施しており、実施回数は年々増加傾向にある。居住地交流では、中学校より小学校での実践が多く、学校や地域によって実施回数に差がある。

・学年が上がるにつれて、時間的な制約や各教科の授業時数の確保等により、交流の機会が減少傾向にある。交流の仕方や教育課程の位置づけの工夫等が必要である。

６　支援教育教職員研修の充実について

・府教育センター支援教育研究室では、年間を通して校種や経験、テーマ別などさまざまな研修を実施している。

・今後も教員のニーズに特化した内容の研修、コース別研修など、より課題に応じた研修の充実を図っていく。

支援学級数の増加の点で質問や意見が出されました。今後インクルーシブ教育が進むことにより、学校全体での支援をさらに充実させ、すべての子どもの「わかる・できる」授業づくり・学級集団づくりの実現に向けて取り組んでいくことが大切ではないかという意見も出されました。また、今回の懇談会で、教育委員会や府教育センターでは支援学校の設置や、研修による教職員の専門性向上など、多くの事業に取り組んでおられること、その成果や現状を知ることができました。障がいのある子ども一人ひとりの自立をしっかりと支援できるように、教職員も思いを一つにして児童生徒の教育に努めていきたいと思いました。

大阪府支援教育研究会　行事部